

## 第3学年学級活動指導案

- 1 日時・場所 令和4年7月13日(水) 第3校時 3年生教室
- 2 題材名 「どうしよう？」  
(「ねえ聞いて」 県立教育研修所 いじめ未然防止プログラムより)
- 3 指導にあたって(児童数20名)

特別支援学級在籍の児童2名を含めた20名の児童らは、入学してからクラス替えもないためお互いのことをよく知っている。授業中に教科書のどこを開けるかが分からない友だちの手伝いをするなど、さりげなく手助けをすることができる児童もいる。4月当初の休み時間、クラスの仲間でドッジボールをしていたとき、特定の一人ばかりを狙ってボールを投げ続けた児童がいた。それを見ていた児童が、担任に「あれはだめだと思う。」「いやな気持ちでした。」と訴えに来た。規定のルールを守って遊んでいたことには変わりはない。しかし、普段と違った雰囲気を感じ取って「おかしい」と思い、担任に相談するという行動に移したことは人権教育の観点から、めざす子ども像に近づきつつある事象と捉えることができる。一方、学級の中には、友だちに嫌なことをされても「やめて」と言えなかったり誰かに相談できなかつたりする児童がいる。また、5月に行ったアンケートでは、「人をきずつけるようなことばを友だちが言ったらちゅういをする。」という質問に「はい」と答えた児童は、2年生で57%、3年生では30%、4年生50%と、3年生ではわずかながら低い値になっている。

本題材は兵庫県立教育研修所のいじめ未然防止プログラムの中の一つである。「相談、支援を求める力」をつけるためのプログラムに位置づけられている。日常生活の中で友だちに嫌なことをされたとき、それに気付いたときの両方の立場からの気持ちや行動を考え、受容的なクラスの雰囲気を醸成することをねらいとしている。言葉や台詞の表記もなく、絵だけで想像するので、自由な発想で考えることができる。グループワークを主とした学習活動を設定するので抵抗なく発言できると思われる。また、普段の学校生活でよく起こりがちな事象が取り上げられており、具体的な行動や声かけについて容易に想像することができる。しかし、「いじめられた人」「いじめをした人」「それを見ていた人」など、様々な立場があるため、整理しながら授業を進める必要がある。

指導にあたっては、まず、グループ毎に違った場面の絵を配布し、絵の中の「困っている人」は誰か、その人はどうすれば良いかについてそれぞれのグループで考えさせたい。その後、全体で交流しながら学習を進める。その中で、具体的にどういったことばで対応するかを考え、言ってみる活動を設定する。実際にことばにすることで、今後、そういった場面に遭遇した際、適切に対応できる力を身につけさせたい。また、様々な場面について考えることで、自分や友だちが「困った」状況はいつでも起こりうるものと捉えさせたい。グループ学習の後、「助けを求められたらどうすれば良いか」については個人で思考させる。一人で思考することで、身近な差別やいじめに気付き、自分の考えを持って行動することができる力を付けさせたい。また、どうしていいか分からないときには、担任はもちろん、養護教諭や担任外の教諭・保護者など助けてくれる存在があることを再認識させ、本校の人権教育の目標である「差別に気付き、解消に取り組める児童」を育成していきたい。

### 4 本時の学習

#### (1) 目標

困った時には自発的に援助を求めること・困っている人の存在に気付き、援助することの大切さを知り、適切に対応しようとする力(スキル)を身に付ける。

#### (2) 人権教育の内容 人間関係の活性化 3-(2)-ア

(3) 展 開

学 習 活 動	指導上の留意点と支援 ※評価
<p>1 最近あった困ったことを想起する。</p> <p>2 「困ったカード」を見て、困っている人を見つけ、その人はどうすればよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「やめて」と言う</li> <li>・ その場所から逃げる</li> <li>・ 他の友だちの所へ行く</li> <li>・ 先生の所へ行って伝える</li> </ul> <p>3 「困ったカード」の中の困った人は、友だちにどんなことばで助けを求めればよいかを考える。</p>	<p>○ 授業内容と関連がないものも取り上げ、リラックスした雰囲気です授業を始める。</p> <p>○ グループ毎に違う場面のカードを配布し、それぞれで考えさせてから全体で交流し、考えを広げさせる。</p> <p>○ まず、困っている人に印を付け、着目させてから考えさせる。</p> <p>○ グループでの話し合いを最初にさせることで、発言しやすい雰囲気を作る。</p>
<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 2px; margin: 5px auto; width: fit-content;">困ったことを伝えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ たたかれて痛かったんだよ</li> <li>・ なんか、悪口言われているみたい</li> <li>・ 仲間に入れてくれなくて悲しいよ</li> <li>・ 話しても無視されていやだったんだ</li> </ul> <p>4 助けを求められた人はどうすればよいかを考える。</p>	<p>○ 学習活動2で考えた方策の中から友だちに助けを求めることに着目させ、実際にどういうことばで伝えるかを考えさせ、発言させる。</p> <p>○ スムーズにことばが出てくるように「ねえ、聞いて」の後にどう言えばよいかを考えさせる</p> <p>※ グループの中で活発に発言したり、考えたりしているか。</p>
<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 2px; margin: 5px auto; width: fit-content;">困っている友だちの力になろう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困ったことを一緒に伝えてあげる</li> <li>・ 違う場所で一緒に遊ぶ</li> <li>・ 先生の所へ相談に行く</li> </ul> <p>5 困ったときには助けてくれる人が周りにたくさんいることを知る。</p> <p>6 学習をふり返る。</p>	<p>○ 個人で思考し、ワークシートに記入させる。</p> <p>○ 具体的にどんなことばで答えてあげるのかを交流させる。</p> <p>○ 自分たちで解決しようとする考えも認め、周りの大人にも相談するなどの行動をとることが大切だということを押さえる。</p> <p>※ ワークシートに自分の考えを記入できているか。</p> <p>○ いじめる側の人についても少し触れ、自分も様々な立場になり得ることを伝える。</p> <p>○ 教員や家族の画像を提示することで助けてくれる人の存在を再認識させる。</p> <p>○ 何か困ったことが起きてもクラスの中でできることがたくさんあることも再確認させたい。</p>